

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域での暮らしを支えていくための基本理念として「心はずむ・やさしさの輪」を掲げ、7つの約束(事業指針)に基づいた日常生活支援が実践できるよう努めている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りの中で基本理念・事業指針を唱和し、理念の実践が「笑顔」につながるように日々取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には契約時に説明し、ホームページでの公開・パンフレットに明記するとともに、ホームの玄関・スタッフ室に掲示している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物・食事外出での挨拶など、気軽に声を掛けていただけるよう取り組んでいる。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の幼稚園での催し、地域の行事などに参加し交流を図っている。また、新たな試みとして近隣の中学校から当該施設への体験学習を予定していたが、新型インフルエンザの流行により、現在の所、期間順延としている。		

グループホームまごころ城陽(さくら)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>研修・見学等を受け入れるとともに、市の高齢介護課に赴いたり、運営推進会議の中などで認知症介護に係る相談等があればと話している。また、市からの委託を受けて毎年市民向けに認知症予防教室を開催し、参加者等から好評を得ている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の内容は職員と協議・分析している。その評価の結果を活かし、可能な限り改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議での意見・情報を活かし、提供するサービスの向上に努めている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市内の介護支援専門員連絡会の場や市担当者との面会による報告や相談を行っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護に関する研修は管理者が受講し、その内容を資料として職員に伝えられている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的に虐待についての事業所内研修を行うとともに、高齢者虐待防止関連法については資料として職員に配布し伝えている。虐待はあってはならないことなので常に注意を払っている。</p>		

グループホームまごころ城陽(さくら)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際に契約書の内容を読み上げて説明し、同意を得ている。また、それぞれの不安や疑問については十分に説明し、理解を得ている。解約時にも個別の相談や適切なアドバイス、事業所・相談先を紹介している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員を受け入れるとともに、日常会話の中から苦情や不満を聞き取るなどの機会を設け、スタッフで共有・対応している。時には家族への連絡や、来訪時に意見の交換を行っている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に一回、写真付きの『まごころのたより』と、各入居者の近況を報告する手紙を家族宛てに発行している。また、家族の来訪時には利用者の近況報告を行うとともに、必要に応じ金銭管理の事や職員の異動について説明している。健康状態についてはホームDrから定期的に連絡されている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口を設置するとともに、1Fと2Fの入り口に、それぞれ意見箱・苦情受付に係る文書を掲示している。また、家族来訪時や家族会等にて家族の意見を伺っている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ユニット会議及び引継ぎの際に、職員の意見や提案を話し合う機会を設けている。また、具体化できるものについては早目の対応を行っている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に応じ、必要な対応ができるように努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>特別な理由を除く異動や離職は、最小限となるように努めている。</p>	

グループホームまごころ城陽(さくら)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月例の社内研修及び事業所内研修を実施し、また、外部での研修にも努めて参加できるようにしている。日々においても必要に応じ指導している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会への加盟・地域の介護支援専門員の連絡会への参加にて交流が図られている。また、利用者紹介時におたがいに訪問、見学し交流を図っている。</p>	<p>○ 同業者間での研修(実習)の機会を設け、交流を深めて生きたい</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>現場スタッフの業務への不安や悩み等、管理者から運営者に報告し、必要に応じ環境改善等に取り組んでいる。また、スタッフの精神的負担を少しでも軽減できればと、ストレスマネジメントについての研修を行う一方、他方では定期的に懇親会を開催するなど、スタッフ間で気安く話が出来る環境作りに取り組んでいる。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>月に一度の介護事業部会の開催・事業所報告シートの作成・週間報告・事業所訪問等により把握し、必要な改善や環境づくりに努めている。</p>	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居に係る面談において可能な限り本人の思いや要望を聞き、受け入れ態勢を整えるよう取り組んでいる。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居に係る面談において可能な限り家族の思いや要望を聞き、受け入れ態勢を整えるよう取り組んでいる。</p>	

グループホームまごころ城陽(さくら)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際に、本人が必要としている生活支援を見極め、必要ならば適切なアドバイスや施設・相談先を紹介している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能なかぎり内部見学等の段階を経て利用できるように対応している。また、不安がある方等にはショート利用の機会も設けている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	馴染みの関係づくりから、共に安心して快適な生活・楽しみと笑顔のある関係を築いている。また、人生の先輩として多くの事を教えていただいている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には案内を出し、家族会、クリスマス行事等に参加して頂いたり、来訪時に要望や協力事項への意見交換を行うなど、共に支えあえる関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	聞かせていただける範囲で今までのご本人と家族の関係を聞き取り、理解に努めた上で、家族との食事外出やご本人の誕生会に参加していただいたり、年賀状や電話などの手段を用いるなど、家族との良好な関係を築いていただけるような支援を心掛けている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と相談の上、本人の大切な人、関係の深い近隣住民や馴染みある場所との関係が途切れないように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間の馴染みの関係から、お互いに助け合う姿や仲良く会話を楽しみ和んでおられる姿が見られる。職員はその良好な関係を保てるように努めている。		

グループホームまごころ城陽(さくら)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	可能な場合、退所(施設入所)された方の所へ面会に行っている。その他継続的な関わりが必要な場合は対応するよう心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活支援の中で本人の希望・意向(表意が困難な方にはその思いを勘案)を把握できるよう取り組んでいる。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に係る面談において可能な限り、本人・家族から聞き取り、これまでの暮らしの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活の中での「できること」や「できないこと」を把握し、その方に応じて「したい活動」を行っていただけるよう生活支援を心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を基に主治医の意見を取り入れた上でカンファレンスを開催し、その意向を反映させた生活援助計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態変化等により計画の見直しが必要になった場合は、カンファレンスを開催し計画の見直しを行っている。		

グループホームまごころ城陽(さくら)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノートに日々の様子や変化等を記載し、共有した情報を毎日のケアに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の受診・入院生活支援を提供している。また、状況によりショーステイの受け入れも行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を活かした地域資源との協力関係が築けつつある。また市の高齢介護課より、敬老会の参加、民生委員等の消防訓練参加や、消防や警察へも赴き、入居者のプライバシーに配慮しつつ個人の特徴など情報を提供し、災害や離設時の協力体制を整えている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要があれば居宅介護支援専門員の連絡会を通して、地域の他のケアマネジャーとの連携により支援できると思われる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を活かした協力関係を築き、助言などもいただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に係る面談において本人や家族の希望を優先する事を説明するとともに、ホームDrについての説明も行っている。なお、現状は利用者の大半が入居契約時に希望され、ホームDrの適切な医療を受けている。また、必要に応じて他の医療機関も受信している。		

グループホームまごころ城陽(さくら)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	気軽に相談できる看護職員との関係を築き、安心安全を提供したい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライドを傷つせず、適切な言葉かけや対応を心掛けるとともに、個人情報については、取り扱いを厳重に行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の生活の中での「できること」「できないこと」「したいこと」を把握し、その方に応じた生活支援を心掛けている。また本人が自分の思いを表出できるよう努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課の中で、本人の状態や気持ちを優先し、その方のペースに応じた支援に努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類は自己決定して頂けるよう働きかけている。また散髪は希望がなければ2ヶ月に1度の訪問理容を利用して頂いており、染髪や外出時の化粧は職員が対応、日常の髭剃り、整容等においては出来ないことを支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、食材の買い物、食事の準備や調理、配膳、後片付け等を利用者と職員と一緒に楽しみながら行えるよう取り組んでいる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望や食事の内容に応じてビール等の提供を行っている。また、煙草については指定の場所で見守るが、現在は喫煙者が不在。おやつなどは本人の希望により一緒に買いに行き、自身で管理している利用者についてはスタッフがそれを把握している。	

グループホームまごころ城陽(さくら)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できる限りトイレでの排泄を目指すとともに、必要とされる方には排泄パターンの把握に努めトイレ誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかの日課の中で、午後2時から4時の入浴時間を基本に、利用者の希望する順番・時間・湯温等に配慮した入浴を心掛けている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	大まかの日課の中で、夜間の安眠につながる日中の活動を支援しているが、利用者のペースを尊重している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴や能力に応じ、料理や軽作業などの役割や外出等での気晴らしの機会を提供している。また、一緒に買い物に行き、食べたいものや個人の趣向に沿ったものを購入している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により自らある程度の金銭を所持される方も居られるが、それ以外は本人、家族から了承を得て事業所で一括管理している。買物の際には、可能な限り利用者からの支払いができるよう心掛けている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関先での外気浴、適宜の散歩、買い物などに取り組んでいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望による家族との個別外出や職員との買い物時に、本人の馴染みのスーパーやよく行った場所などを聞いて訪れる機会を設けるとともに、外出行事には可能な限り希望を聞くようにしている。		

グループホームまごころ城陽(さくら)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望に沿って、電話や手紙を利用できるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に制限無く、いつでも気軽に訪問していただけるようにしており、ゆっくりと面会を楽しめるような環境の提供を心掛けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行い、正しく理解できるように努めており、身体拘束のない日常生活支援に取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の施錠は利用者が行い、日中は玄関ドア・道路に面した出入口への施錠は行っていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間で連携を取りながら、プライバシーに配慮しつつ入居者の所在を把握できるように努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品に関しては一人ひとりの状態を把握して、保管すべきものは管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書やひやり・ハット報告書を通しての事例検討、個別対応を検討し、事故防止に努めている。		

グループホームまごころ城陽(さくら)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	施設内で防火管理研修会を行い全職員に防火管理の重要性を説いている。また緊急対応・夜間緊急マニュアルに沿った対応ができるように取り組んでいる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災計画に基づく総合訓練等の施行。専門機関による設備の安全点検及びに職員による日常点検の施行等、防火管理者を中心に防災計画を進めている。また、総合訓練時は民生委員にも参加して 頂いている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクについての説明及びその対応策について家族等と相談している。また、リスクを重んじるあまり抑圧感が生じないように安全対策を職員間で話し合っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々、利用者の体調変化や異変に気を配り、少しでも様子がおかしい場合は必ず次の勤務者へ申し送り、異変に気付いた際には複数での確認を徹底している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書を整備するとともに、服薬前の誤薬防止確認の励行、服薬確認などの支援を行っている。また、服薬する薬や量が変わる場合は往診ノートなどに記し、全員が注意深く様子を観察している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	おやつの際にヨーグルト等の乳製品を提供したり、食物繊維を摂取していただいている。また、体操、レクにて便秘の予防に取り組んでいる。その他排便チェック表をつけ、ホームDrとの連携により下剤での排泄調整を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの励行に努め、必要な方には職員が支援している。		

グループホームまごころ城陽(さくら)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は日々記録して不足にならないように心掛け、個人の嗜好を取り入れながら、嚥下、咀嚼能力に応じた食事や飲み物を提供している。また、月に一度献立を管理栄養士に見て頂き、アドバイスを受けるようにした。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	スタッフが施設に入る時は、手洗い・うがいを義務付けている。入居者や来訪者についても施設に入る時や食事前等、手洗い・うがいを励行している。また、インフルエンザの予防接種や感染症予防に関してのマニュアルを整備し対応している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具・食器は、漂白や消毒・乾燥機の利用を行うとともに、安全で新鮮な食材の提供に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	手作りの表札を掛け、玄関へのアプローチには季節の草花を植え親しみ易い雰囲気づくりを心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や絵、利用者の作品を飾っている。また、清潔に努め、対面キッチンでの調理音や臭いで生活感を味わっていただく等、居心地の良い雰囲気づくりを心掛けている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、イスの設置場所を工夫し、気の合う人同士が気軽に話せるようにしている。また玄関先にイスをおいて独りで外の様子を見て過ごせたり、リビングの少し離れた位置にソファをおいて干渉されずもみんなと同じ空間で過ごせる場所として利用してもらっている。		

グループホームまごころ城陽(さくら)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、馴染みの物、使い慣れた物、大切な物を持参して頂けるように働きかけている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適宜に居室や廊下の窓を開けて換気している。温度は随時利用者に確認しながら判断し調節している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所には手摺を設置し、居室内では家具の配置等で自立した生活が送れるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ等の表示や必要に応じ居室の扉に表札を掛けたり本人に解る目印を設置したりして、各人が自立して暮らせるように工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	郵便受けに新聞を取りに行くときに危険の無いよう空間を確保しつつ、玄関先にベンチを配置し談話スペース、気分転換の場所として活用している。また、季節の花を植え、世話をしたり楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームまごころ城陽(さくら)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

生活の中でなるべく自然なカタチでADLを維持できるように支援しております。また日々の暮らしの中で充実感をもっていただけるように、ホーム内での家事等の支援や買い物、趣味の継続など個々の出来ること出来ないことを把握し、最小限の支援にて、したいことをいつまでも続けることが出来るように心がけております。月に一回の行事をかねた外出では、思い入れのある場所にいたり、季節観を楽しみながら味わっていただけるようなプランを計画し実行しています。

その人それぞれがここで生活するのだという事を念頭に、なにをどう支援するのか？この人にとって必要なケアとはなにか？を日々考え、実行に移しております。まごころの名に恥じないよう、まごころあふれる対応で入居者やその家族をホーム内外で支援していける地域に根ざした事業所を目指しています。